常磐毎日新聞

日刊

定價 一部金五錢 一ヶ月金[illegible]
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祭日の翌日休刊
編輯發行兼印刷人 坂本[illegible]
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

二月二十四日夕刊

天氣豫報

今晩は北西風 晴
明日も北西の 晴一時曇

例年より增加した 本年度の壯丁

社會的な原因追究

大正時代の好景氣の反影 躍進日本の逞しい力表象

聖戰既に第四年目を迎へ時局いよ〳〵多端を加ふるの時、國防の重任を擔ひ大君の醜の御楯となるべき壯丁を選ぶ平市の徵兵檢査は既報の如く五月三、四の兩日市公會堂で執行さるが本年度の受檢壯丁は全く事變下にふさわしく平時よりも約〇〇名增加を來たしてゐる頼母しさである、その原因は那邊にありやと種々なる角度から檢討されてゐるが、その一角度的說として現れてゐるものは、本年度の受檢者は大正八年十二月二日から同九年十二月一日までの間に生れたものであり大正八年の好景氣時代』の猛烈な『産めよ殖やせよ』の反映、ではないかと見られてゐるのと、その前年即ち大正七年十二月二日から同八年十一月一日までに誕生した乳幼兒が烈しい流感のため意外にも死亡したものが多かつたゝめの反動として、その次の年の即ち本年適齢者の生産が多くなつたのではないかと觀測されてゐる、この社會的原因の追究は別として、本年壯丁の增加したことは『躍進日本』の逞しい力を表象した喜ぶべき現象である

家賃の値上げに 道路鋪裝が理由

委員會審査の結果

直ちに却下の鐵槌

既報、平地方における第二回目の地代家賃審査委員會はこの程平署會議室で開かれ値上げ申請十五件に對し審査の結果否決されたもの三件、修正されたもの七件、認められたもの五件に達したが否決されたものは「稅金が上つた揚句道路が鋪裝されたとか、美觀を增したとか、前の借主は夫婦者であつたが今度のは子持だから」などゝいふ理由を並べたものでいづれも「斷じて値上げ相成らず」と鐵槌を下されたものである

尚修正された七件は風呂場を造つたから三圓値上げをなすといつた類なので斯うして虫のよい申請には一圓だけ値上げを認めて委員會を通過したものだといふ

竊盜犯檢擧

勿來町字大高大日本炭礦中央坑々夫前科四犯佐川直治（四二）は二十一日夜川部村字沼部の農家よりリヤカー一臺（價格八十圓）を竊取自宅に隱匿更に同坑から鐵屑、鐵板、鐵管等價格二十圓を拔拂つたこと發覺二十三日植田署に檢擧された

優漁表彰

揚繰は共德丸

既報小名濱町並に磐城水産工業會社（町營魚市場代行機關）同漁業組合の十四年度優良漁船、船員鮮魚商表彰式はこの程小名濱水産試驗場で擧行されたが受賞者は左の如く揚繰船の最高漁獲は柳内吉助氏所有の共德丸で廿一萬二千六百五十八圓、鰹船では吉田傳兵衛氏の盛厚丸六萬七千九百十三圓、底曳では齋藤誠吾氏の觀音丸三萬八千七十二圓であつた

▽揚繰漁船二等十三萬五千八百四十二圓寶來丸高橋友吉、三等十一萬二千七百九十圓比佐政種▽鰹漁船二等四萬八千八百九十五圓明方丸遠藤數馬、三等一萬九千九百五十一圓壽々丸加藤安太郎▽底曳漁船二等三萬五千九百七十四圓勇丸田島熊次郎三等三萬七千五十圓松丸馬上松太郎▽群魚商特一等小野豐次、一等櫻井吉五郎外三名、二等馬上留次外五名、三等藥谷松之助外十一名▽船員大勝丸馬上菱勝外十四名

控訴院檢事長 石塚氏來平

宮城控訴院の石塚檢事長は二十七日午後零時四十三分着で來平、檢事局を視察した上住吉屋本店に宿泊するが翌二十八日は平發午前八時三十分で郡山に向ふ

小名濱支局通信

漁村の懷中調べ（五）

支局長 小野務平

江尻局長の語る處によると十四年七月一日の開局であるから何も斯も新規計畫で寧ろ自然の成り行きとして業務に致はつて居る樣なものです、ですから何が何だか猫に念佛で全く勝手が判りませんが昨年開局後からの鰯などの漁が在る樣でした關係で貯金も增加一途を辿つて居る傾向です、七月一日から十二月迄での純貯金殘高は四萬二千五百七十六圓になつて居るので實は聊か驚いて居ります、御尋ねの舊年末後の受拂は一月二十二日から二月十五日までの間に於ては受入が參萬七千百五十二圓ありましたし拂出しが僅かに七千七百二十三圓に過ぎませんから純增加が三萬圓位がある譯けで通計六萬七千圓內外が開局後の現在と計算になつて居ります。

ですから一日平均約三百圓宛の純增加がある事になつて居りますのに見ても一般の貯金思想が如何に向上されたが窺はれます、此分で進むと十五年度は增加率が約三倍位になるだらうと豫想して居りますと語り更に當局も愈々二十六日から公衆電話も電報も扱ふ樣に進展したと自ら電話室に案內して電話番號さへきまれば使用も可能ですと云ふ事でやつと局らしき体裁を供へて來ましたから充分使用を願つて置きますと語るのであつた。

江尻君は富豪の曹子に似もつかぬ移都かな性質で然かも紳商らしき態度で局長たる官吏臭味の持たぬ所に地方的の親しみを見せて居る、話しは更にラヂオの件に移り現在取り扱ひに數が六百六十余で今一息で七百ですがこれも今一奮發で其目的數に達成すると考へて居ります、そうなればラヂオの會を組織して此れが普及と故障防止の研究を目的とした加入者の懇談でも起したいと思つて居ります。

などと談は益々局經營の擔負にまで發展し高說を聞く機會を捉へたのであつたか談せば談する程諄々たる談きの話柄が繰り展け行くのであつた、記者は時を見計つて御邪魔した事を詫びて引き下つたのであつた。

思ふに舊年末の金融界は溜の大漁と米價の高騰から一般大衆の懷中が膨く程の膨脹であつてザット打算して百五十萬圓內外の純增加となつて金融界を躍らしてある有樣で此分で行くなれば之を全國的に見れば實に厖大なる數字となつて現れ百億貯金も屁の河童として現れ行く事を痛快に感ずるのである。

終りに臨んで七十七の櫻井君を初め信用組合の長瀨翁や郡山撫盡の黑田君更に木村、江尻の兩君などの然かも多忙の中に能くこれだけの材料を提供して呉れたものだと今更の如く感謝して已まぬ處である、談者各位には又永々しき山鳥の尾に均して冗文を御叱りもなく御覽下さいました事を深甚の敬意を捧ぐる次第である。

（完）

鳳城炭礦

復興を急ぐ

植田地方の炭礦開發は石炭飢饉を反映していよ〳〵活潑となり群小炭山が族出しつゝあるが一方廢山、休坑も吾が世の春とばかり續々復活、上遠村鳳城炭礦も新に小田吉次、戶部光衛兩氏の共同出資により增產國策の脚光を浴びて更生のスタートを切るべく目下工費三十五萬餘圓を投じて復興事業を急いでゐる

同礦は昭和十三年二月坑內出水慘事のため遂に廢坑の止むなきに至つたものだが滿二ケ年で再び黑ダイヤ景氣を再現するといふので地元上遠野方部は早くも沸き立つてゐる

映畫見物の男

網走を出た竊盜犯

平署では二十二日夜市内南町平館で活動を見てゐた擧動不審の男を檢擧したゞ取調べの結果同人は宮城縣伊具郡角田町生れ目下住居不定强竊盜前科六犯を有する强か者加藤今朝次郎（四二）といひ昨年十二月二十六日網走刑務所を出所した男で去る十三日夜神谷村の鹿島、稻荷兩神社を襲ひお賽錢六円餘を竊取逃走中のものと判明したが他に餘罪あるらしく目下追究中である

水道斷水

工事の爲め

平市堂ノ前、中町及び長橋町、十五丁目、南町、鍛冶町の一部は水道の配水管施設工事のため今晩八時三十分から翌朝二時迄斷水する

木炭闇取引に……

總動員法違反で

罰金百圓言渡さる

赤井村大字高萩字下代木炭商黑田淸藏氏（四〇）は二十三日平區から國家總動員法違反で略式罰金百圓に處された

同人は昨年十一月三十日と十二月九日の二回に亘り東京市中野區多田町柏原喜八郎氏に對し公定價格より一俵に付十錢乃至十六錢を儲け木炭八百十四俵を賣却百二十八圓餘の利益をせしめたものである

縮少方針で 豫算案成る

平市の內示會

平市の十五年度豫算市會は來月二日招集の豫定だが新豫算案は縣の縮少方針に基き各種委員會で再檢討の結果編成、大体四十五萬圓から增額を見ない模樣で議員一同に廿七日內示會を行ふ由

報恩の 宮川會

平市驛前通り宮川理容所の出身者から成る宮川會では今二十四日午前十時から主人宅で第二回の總會を開き關係將士の武運長久を祈願した後豫算、決算を附議終つて懇親會を催し頗る盛況を呈した

頰刺し 豐漁

出荷量が激增

小名濱地方の重要物產たる鰮の〃頰刺し〃は豐漁を反映して生產量も激增目下百連八円臺の高値でドシ〳〵東京、關西方面へ出荷してゐるが

連日出荷量は一千數百連（貨車三十五輛）に上り配車難の折柄泉驛は滯貨の山となり臨時取扱停止を行ふ始末

發送量は前年より倍增だが原料と工賃高のため市價値上りにも拘らず生產者の收益は前年と大差ないといふことだ

小田吉次氏も 一萬圓寄附

平工業學校へ

平市の磐立工業學校に對する寄附募集額は昨報の如くであるが更に本日好間村小田吉次氏から金一萬圓を寄附すべき旨の申込みあり是れを合して寄附金の確定額は四十八萬円に達した

六號國道を調査

金森仙臺土木所長一行

金森仙臺土木出張所長及び內務省黑田技師一行は二十五日小名濱港灣を視察後植田町鮫川橋を中心として國道六號線を調査される

草野上等兵

南支に散る

飯野村上荒川出身草野忠平上等兵は一月三十一日南支戰線で名譽の戰死を遂げられた旨この程村役場へ公電があつた

同君は日露戰爭に從軍した父金之助氏（六二）の長男で弟忠悟君、忠康君も出征で兄弟三人揃つて今次事變に活躍してゐたもの、實家には父及び母はたさん（五八）をはじめ妻子二人姉妹弟七人があり農業を營んでゐる

幸先よい 合格者

磐中から

磐城中學校の今年度卒業生は百七十五名でこの內上級學校志望者は家業や就職等を除き百二十八名だが左の六名は早くも東京市大泉師範學校二部を受驗見事合格、幸先よいスタートを切つた

西山章、小野勝三、高

農友會の 肥料講演

大浦村農友會では今二十四日午後一時から小學校で總會を開き田中縣農林技師の肥料講演を聽取した後今年度の活動方法を協議した

竈の火

居宅を燒く

略式で卅圓

勿來町大字四澤字天ケ作飲食店石井三亮（二六）は一月九日正午頃カマドの不始末から火を發し居宅を全燒、二十三日平區から失火罪で略式罰金三十圓に處された

理髮料の 値上至難

不許可方針

平署管內の理髮業組合では諸物價高を理由に五錢の値上げを陳情することになり目下協議を進めてゐるが既に昨年中石炭昂騰による錢湯業者の切實な値上要求さいも刎ね付けたゞけに金額は零細でもこれを認可することは先づ難しいと見られる

カフエーの ロハ呑み男

好間村上好間字石田好間炭礦坑夫渡邊正一（二九）は去る十八日夜平市南町カフエー中央會館で六圓二十錢の無錢飲食を働いたこと發覺今二十四日平署に檢擧された

鈴木氏寄附 平市

鎌田町鈴木定光氏はこの程死亡された父光吉氏の遺志により今二十四日市銃後奉公會に金十圓を寄附した

胡摩澤區長 平市

第十五區（胡摩澤）區長代理田名網申藏氏はこの程辭任され後任には鈴木末吉氏が推薦決定された

平市人事

出 生

△田町三六目下相馬郡小高町字南小高字町一二大石明氏長男弘君

回 婚 姻

△材木町一五和田國雄氏（三〇）と東京市小石川區小日向水道町六六松本志津さん（二六）

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇 連續劇「たんれん部隊」（二）大阪放送コドモ會

▼後六、二五 講演「裁判と國民」大森洪太

鄉土に寄する言葉

（午後七時廿分放送）

海軍中將中里重次（山形縣出身）

概梗 東北人は鈍重であるといふ評判を聞きますが鈍重敢て忌むべきに非ずその半面には重厚といふ事が言はれ機敏でないといふ裏には熟慮といふ事もありまして現に日淸戰爭以來數回の戰爭で東北の兵が他師團に比し毫も遜色ない處か勇猛の精神が特に熾んで又今回の事變に於ても東北の師團は最も強く且つ勇敢であることは一般の認める所である、海軍に於ても所謂質實剛健の氣質を備へてゐることは陸軍と同樣東北人の誇りである、たゞ引込思案や又一人で仕事をする方で大勢の人々と一緒になつて協同的に働く方面に聊か欠けて居りはしないかといふ點が見へる事は遺憾である、斯いふ點をお互に相戒めて矯正致すことが肝要であると考へる。

▼後七、三〇 國民歌謠

▼後七、四〇 連續物語「宮本武藏」德川夢聲

▼後八、二〇 講演「持久戰と家庭生活」下村宏

明日の部

▼後九、三〇 子供の時間 解說付管絃樂 中央交響樂團 指揮篠原正雄

▼前一、〇〇 國民精神動員皆スキー行進實況、長野縣霧ケ峰スキー場より中繼

▼後〇、〇五 吹奏樂 大東京吹奏樂團 指揮島田晴譽

▼後一、〇〇 傷病將士慰問の午後…豐橋陸軍病院高師原分院より中繼

▼後三、〇〇 北米西部海外放送 ラヂオドラマ「新島襄」坂東蓑助外

▼後六、〇〇 子供の時間 連續童話劇「僕と私の銃後日記二月の[illegible]石成雄他

▼後七、二〇 鄉土に寄する言葉 作家久米正雄

▼後七、三〇 錄音リポート

▼後七、四〇 連續物語「宮本武藏」德川夢聲

▼後八、三〇 チエロ[illegible]高勇吉、竹村[illegible]

▼後八、五〇 邦樂[illegible]淺太夫豐竹古靱[illegible]

時計と眼鏡
ラヂオト蓄音器
—レコード部—
◇…只今の流行歌…
白蘭の歌・愛染椿・涙の責任
平市五丁目
金光堂時計店
電話一九五番

エタニツトパイプ
鐵管代用

	耐壓封度	內經	一本ノ長サ	一本ノ價額	ギボルト繼手代
D級	250	50ミリ	3m	4.72	2.90
〃	250	75	3	6.97	3.50
B級	100	100	3	7.90	6.25
〃	100	150	4	17.70	9.20

平市仲町通り
文 山田文一商店
電話262番

病室增築、手術室完備
醫學博士
產科婦人科 五十嵐雄二
平市新川町 電話三六九番

松井勇劍傳

第十一回

市兵衛に美人の嫁

久助にすつかり弱にきめて了ひました。久「御申そうなりや打明いと申捕にして御計でもして」內「待て〳〵」內藏之助も大いに驚いて乘出へ寄ります。みますと正しく我が子民次郎に相違ありませぬので、驚くやら喜ぶやら家中大騷ぎ。茲に於て民次郎改めて今日までの不始末を詫び、城下鳥居先で捕まり[illegible]老人に拐れて山中深く伴はれ、名前とそ明さねども、右の老人とそ世にも稀なる劍術の達人、これに就いて文武の二道を授けられ五年後の今日漸く業成りたるに依つて老人の許しを得て立歸りましたと、來む所なく物語つたので、父の內藏之助これを[illegible]つて世に[illegible]と歸つて不思に[illegible]が見えなくなる事あるとは古聞にも見え、又古來より山中に入つて仙人と申す者に遇ひ武芸の兩道を學び得たと云ふ事も傳へ聞いて居りましたが、よもや我が子が其人な[illegible]たとは誠に不思議な事よと喜び乍らも大變歡びまして。內「それにて仔細相分つた五年以前の騷動は今日はかへつて歡びの種、實に禍福はあざなへる繩の如しと申すが斯かる事を申すのであらう」これから、親戚知己の者へも民次郎の歸宅した次第を報せ、上へも右の趣を申し出ました。

下總守殿にも不思議に思召され、直に登らしむべく、近日召連れよとの御沙汰。依つて民次郎父に從つて登城致し殿樣へ目通り仰せつけられました。未だ十六才の若武者振りに、流石か武藝も選れならんと二三人相手を申し付けられましたが、家中の腕々のやうに劍術の師匠から面は斯う云ふ工合に、胴は何う形だけ敎はつたのと違ひ、理論的に劍術の極知に就いて學んだ民次郎、殊に單身山嶽に入つて二三百人の山賊まで退治して居る[illegible]臨んだ師匠、仕入れた腕への迚ひどころではありませんから何うして奇特などが言ふものぢやない。殊にお話になりません。內藏は[illegible]の行止り、己れと自分の體を身にかけるやうなものは劍術修業に入つて居るものです。改めて師匠傳授に付いて修業がある。民次郎問ひに應じて答へる有樣は大河に流すが如く聊かも淀みもありません。と云つてベラ〳〵喋舌り散らすのではない。答ふべき點以外の事は決して述べない、父親は[illegible]になりまず下總守殿も々感心遊ばされ、お答を下されて以來度々お呼び出し相成ります。お父さんの內藏之助さんだ[illegible]はないのではありません。民次郎が戾つて以來と云ふものは隨つた人[illegible]に[illegible]の自慢を家中の者は內藏之助の[illegible]自慢に食傷するくらい、それでもまだ自慢し切れなくて御家老を捉へて、內「[illegible]我子ながら民次郎は[illegible]なものではないか」娘「左樣でございます」內「それと云ふのも[illegible]と云ふ者の手だからあの樣な立派な倅が生れたのだ」と恐ろしい鼻息、所くてあれば松井家も益々萬歲でありますが、世の中の諺にも月に村雲花に嵐、茲に一つの騷動が出來いたしました。と申しますと民次郎の兄の市兵衛、此の者は[illegible]二十一歲でありますから、勘定方仰せ付けられ、毎日出仕いたして居ります。只今で云へば會計課の役人、勘定奉行の指圖を受けて事務を執つて居ります。

然し市兵衛も初回に申し上げました如く立派な若者で家中の評判も至極宜ろしいから、[illegible]ことはあるまいと思はれますが、緣と云ふものは何處から廻つて來るか分らんもので、[illegible]ら、ぬ身の知る由もないことでございます。

此の市兵衛の人物を見込んで是非娘をつかわしたいと云つたのが家老の[illegible]主水と云ふ人、娘をおさんと申します。名前はおさんでも容色はお一、人は山形小町の第一[illegible]小町のと綽名いたします。このおさんの事より本篇はいよ〳〵佳境に入るのでございます。

・小ばなし・

「ネエお父ちやんどうして寒くなるとアリがゐなくなるの」「アリはね、夏暑い間に働いて、たべ物をうんとためておくから冬は休んでゐるのだよ」すると子供が「フーンではアリは皆、買だめで暮[illegible]くらだらうね」

お嬢さん部隊

霜田たま

この間うち私は支那をぶらぶら歩いてきて、そここゝで兵隊さんに會ふ機會が多かつた。旅行をするのに、殊に戰地を歩くのに、和服は不便極まりない服装だけれども、私はそれでお通しした。何かにつけて兵隊さんは、故國のにほひをなつかしがり、和服を着てゐる姑を見ると、心が和むらしかつた。殊に部隊を訪問した時なぞ、みじかい袖の八つ口にちらりとのぞいた紅絹の色に、かぎりないなつかしさを感ずるやうに思はれた。

…………

戰地にゐる兵隊さんは、どの人もどの人も、内地から若しい娘の手のたづねてきてくれるのを待つてゐる。婦人や商賣女や、さういふ種類の人ではなくて、ほんとうのお嬢さんに來てもらひたいとねがつてゐる。純粋のお嬢さんが五人でも十人でも連れだつてすうつと素通りするだけでもいゝから、お嬢さんといふものを、眼近に見たいとのぞんでゐる。

……

誰か統率力のある女の人が、さういふほんとうのお嬢さんたちをひきつれて、戰地へ慰問に出かけるといふ計畫は、どうであらうと私は思つた。それは世間を知らないお嬢さんたちにとつても、いゝ勉強になるにちがひないし兵隊さんにとつては、この上ない慰めである。お嬢さんといふものは、兵隊さんにとつてあらゆる純粋なもの、象徴らしく見受けられる。

……兒童問題研究坐談會……

東亞の融和精神を幼兒の心に植えつける

幼稚園教育の是正も必要です

東亞民族の融和協調に小學校の教育の幼兒からしつかり植えつけねば完全なものとなり得ないでせう、そしてそのためには現在の幼稚園組織を更に改善すると同時に保育者自身の質的向上を圖る等いろ／＼重要問題が伏在してゐます。霜田静志氏を中心に開かれた識者一同の兒童問題研究座談會は同問題に對し貴重な示唆を提供すると云へませう

・・・

(A)子供の本能的な闘爭心がたとへば半島人に對する輕蔑の言葉とか態度とかいふ形をとつて現はれるのではないでせうか

(霜田)　なるほど子供は闘爭本能をもつてはゐますがそれは遊戯の中に融和解消するものと思ひますどんなにあらそつてゐてもすんでしまへば前以上に仲よくなるものです、内鮮融和大きく云へば東亞民族の融和といふやうなこともさういふ遊戯つまり眞の遊戯を通してはじめて生れてくるものではないかと思はれます

(A)　現在のやうにいろいろな物資の不足してゐる時には何より辛抱つよい子供を養成しなければならぬと思ひますがどうでせう

(霜田)　全くその通りです。かういふ時局においてこそ辛抱つよい子供を作ることができますしまた容易だと思ひます、それには小さい子供だからと云つて甘やかすことなしに子供には子供なりに小さな辛抱をさせるやうに仕向けなければなりません、さういふ訓練が積まれてはじめて大きくなつてどんなことにでも辛抱できるつよい性格が作れるのです。しかし辛抱を無暗に強制して子供を卑屈にするのはよくないことです

(A)　その點は非常に重大だと思ひますが、具體的な方法如何

(霜田)　それには子供の心を常にたのしくする導き方……どんなに物が不足しても心だけは充ちたりてたのしいと云ふ導き方育て方が必要でせう

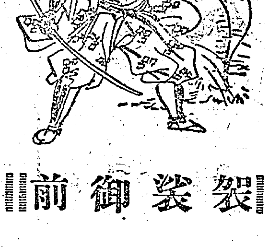
(A)　話は一寸前にもどりますが子供の中にはまだ半島人と云へば無意識的に侮蔑するやうなのがゐるやうですが元來子供は排他的なものでせうか

(霜田)　さうぢやないと思ひます、元來日本精神の特色は大きな包容力にあるのです、さういふ日本精神が排他的であるかのやうに仕向けるのは低い家庭教育にあると思ひますからどうしても幼稚園や小學校教育に於て奨はしい日本精神の特色を生かすやうに育てゆくことが大切です。半島人や支那人に對し差別的な氣持で接する人は現在教養の低い人にかぎられてゐるやうです、さういふ無理解な低い人たちを啓蒙してゆくことも教育家の重要な任務でせう

(A)　現在でもまだ幼稚園の必要を認めない人がありますが

(霜田)　たしかにありますねそこで我々は幼稚園に對する社會の認識を是正する必要があります幼稚園では小學校教育では手の屆かない教育以前の子供本來の個性を自由な形で伸ばさせる意味で不可缺なものです

日本婦德とその眞價



袈裟御前

袈裟御前は生れながらにして端麗[illegible]貞淑[illegible]したのであるが、[illegible]であつた、この遠藤盛遠が美しい袈裟御前の姿を一目垣間見て、すつかり邪戀に入り、無理にも己が妻にせねばやまんものと、その親袈裟に[illegible]に入れしと談判に及んだ、母親の衣川はいたく驚き、早速袈裟を召し、具に禍を告げ

「盛遠の手によつて死するよりは娘の手によつて、むしろ死にたい」

と涙をながして懇願した。袈裟は一度はおどろき困却したが、根が氣丈にして利口な女性であつたから固く決意をなし一策を案じ、盛遠をあざむかんため、まづ夫の渡に酒をすゝめて一寝室に臥さし自らは渡の室に臥し、髪を洗ひて臥ね、暗燈の下に、遺書をしたゝめて、末に歌一首

「つゆ深き淺茅ヶ原に迷ふ身のいとど暗路に入るぞかなしき」

と詠し、夜半忍び來る盛遠に代つて首を斬られた、盛遠はかくて首尾はよしと、獨り合點、外に出て月下にこれをみて袈裟なるを知り驚き悲嘆し、且つその貞烈に感じ首を提げ再び渡の家にいたり罪を告げ死を請うたのであつた、渡その時

「事既にかくの如くである、今[illegible]にして汝を殺すも詮なきこと、共に髪をそり僧とならん」

とてその屍を埋めて塚を作つた、

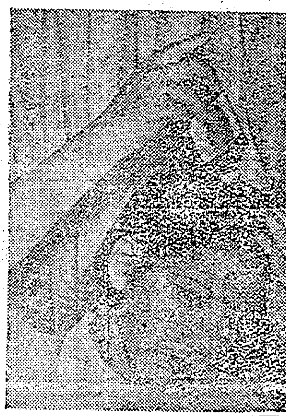
女性の操は武士道に匹敵

婦德の精髄を發揮

婦德としての操は、武士道に對する婦人としての道にやさしき裏付けの第一義的なものである。袈裟御前が死をもつて己れの貞操を守つた行爲こそは、日本古來の社會道德の維持發展に就し少からざる寄與をなしたものであり、また日本婦德の精髄を發揮したものと云ひ得るであらう

春の髪の手入れ

ふけとかゆみを除く秘訣



春になると、天地のあらゆるものが潑剌と躍動してまゐります從つて自然界に生棲するわれ／＼人間の生活力も非常に旺盛になつて來るのもまた止むを得ないことです。

◇…然し女性にとつて最もこまるのもこの時期で、内分泌物の分泌と共に、頭皮から滲出する分泌物がフケとなつてたまり易く、ことに春先に多いごみやほこりのために頭皮の皮膚呼吸をふさいだりするのでますます／＼フケが多くなるのもこの頃です。

◇…きらびやかな服装にまとはれながら、その襟元などに、霜のやうなフケを飛せてゐるなど、近代女性として、もつとも恥づべきことであり、第一不潔で、相手に不快な感じをあたへますから、そんなにフケ症でない人でも、春先は特に注意を要します。

溫まる藥湯で寒さを撃退!

浴劑は何がよいか

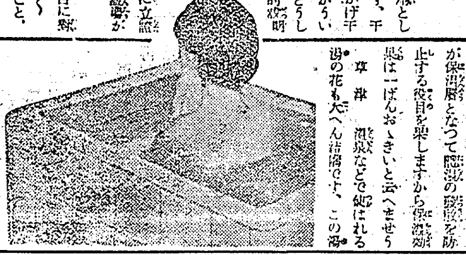
寒い時風呂であたゝまるほど氣もちのいゝものはありませんそして風呂の中に次のやうな浴劑を混入しますと一層あたゝまる上に效果があります

……

昔から用ひられてゐる浴劑としては干菜や桃の葉があります、干菜には主として大根の葉をかけ干しにしたものを使用しますがかういふものを風呂の中に入れてどうしてあたゝまるかといふ科學的說明はまだはつきりついてゐません、それと同じやうな意味で松葉やゆずをいれても非常に身體のあたゝまるのは事實です科學的に立證できる浴劑としてはまづ食鹽湯があります

食鹽　の量は一人風呂に約して鹽一升から一升五合いれてかきまぜていただけばいゝのです。さうしますと食鹽の細かな結晶膜ができて皮膚の表面に付着しそれが保溫層となつて體溫の發散を防止する役目を果しますから保溫效果は一ばんおゝきいと云へませう

●草津　溫泉などで使はれる湯の花も大へん結構です、この湯の花は溫泉から抽出した鑛質その他の化學成分からできてゐてこれは皮膚や關節を刺戟するために血行を旺盛にする點で二重の效果があります



自家用の風呂にはカミツレを用ひることです、一浴に就し兩手一杯位のカミツレを袋に入れて三十分間ほど煎じつめその汁を湯の中に混じるのです、ぬか湯も効き目があります、これはぬかを袋に入れて煮つめその汁を用ひます。[illegible]によくあたゝまります

浴劑に鹽を用ひる人がありますが、鹽化して赤くなつた鹽ではあたゝまりません

（浴場研究所[illegible]二郎氏談）

靴底の長持法

まづ靴底を洗つてよく乾燥させ、ラックニスを藥局で少々もとめ古歯ブラシ等で何度もぬつてかわかした上に、さらに蝋をぬつて使用いたしますと大へん丈夫になつて[illegible]以上長もちいたします

時局小說

驀進

士別三樹　作

北野傳　画

（禁上演映畫化）

第八十二回　戰傷（二）

倉見上等兵は、小屋に近づいてやゝ安心した、といふのは、敵からまだ小屋の入口に五六人一かたまりになつて、警戒してゐたからである。

（まだ生きてゐてくれたか）

彼の胸にグッと嬉しさが込みあげて來て、二人に大聲で呼びかけたいやうな氣がした。

[illegible]と乘り入れると、ヒラリと飛降りて馬と共へ廻つて見た。處には二三人の敵がゐる許りで[illegible]は[illegible]らなかつた。

（なんだ七八人か）

彼はピストルを左手にすると後からパパンと發ちつけた、驚いた二三人がバタ／＼と倒れ、殘つた者は振向いたまゝ、次のタマに[illegible]倒れたのが見えた。[illegible]からパ[illegible]と中へ飛ち込んだ音がした。[illegible]彼を呼んでゐるのであつた。

「中野ッ頑張れッ、俺だわかるかッ」

彼は急いで中野を抱き起しながら、上田の姿を闇の中に探した、

「敵は全部やつけたぞ、上田はどうした」

「さうか、全部やつけてくれたか、ありがたう。うん上田はやられた、俺も眼が見えん」

やうやく闇に馴れた倉見は、倒れてゐた中野の顔を改めて覗き込んだ。

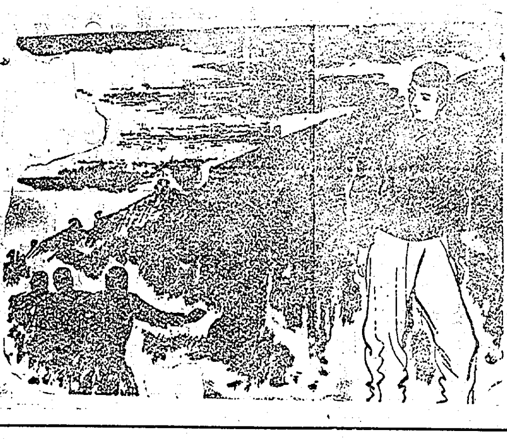
眼をやられてゐるのであつた。

ふと、馬の蹄の音が聞えて來た。

二人は抱合つたまゝ默つて聞き耳をたてゝゐた。

（敵か?）と訪ね合ふことを躊躇したのである。

倉見上等兵は、中野をソッと地にねかせると急いで窓から外をうかがつた。一隊の[illegible]が[illegible]げて[illegible]してくる[illegible]が月明の中に



か、窓口でやられたのを味方と勘違ひしたらしい。

（ざまア見ろ）

彼は今度は反對側から、ソッと窓口の方へ廻り込んで、反對の窓際に立つた、服裝が服裝なので、[illegible]なかつた。

[illegible]手に持つたピストルを[illegible]と擬つてソロ／＼と近づいた[illegible]狙ふ狙はないもなかつた。

パパパン——二挺のピストルから、續けざまに火を吐いたと思ふと、二三人がバタ／＼と倒れて立直る暇もなく窓に殺倒して來た敵としてゐる敵に第二第三發を浴びせかけた。

倒れた敵が不氣味な呻き聲を立てゝゐるだけで、反撃の氣配はなくなつてゐた。

「おい中野ッ、俺だ、倉見だぞッ」

彼はさう叫びながら窓を力まかせに叩き、窓板を蹴るやうにして中へ飛びこんで行つた。

中は眞ッ暗で、前方のテーブ[illegible]ねられ、その奥から[illegible]聲がした。

倉見上等兵は、懐中からマッチを取出してパッと擦つた[illegible]

近づくに從つて、それが自分達戰友であることが判ると、彼は急いで中野の傍に駆け寄つた。そして彼の耳に口をつけて

「中野喜べ、戰友が來たぞ、ほら、もうあんなに足音がするぞ、聞えんか」

中野は闇の中に、ニッコリ笑つた。

「戰友が……戰友が來たか、あゝ聞える、あゝあの足音を、上田に聞かせたかつたなア」

「……」

倉見上等兵は答へもなく涙をのんだ。

「倉見、あの娘は無事だつたか」

「うん、無事だつた、名は[illegible]さらはれて來たらしかつた」

倉見は先刻のことを手短に話つた。

「さうか、無事に逃げてくれゝばいゝが——」

ドカドカと表戸が破られるやうに開く音がある。

「戰友だッ」

倉見は急いで表へ飛び出さうとして自分が[illegible]してゐるのに氣がついた。

[illegible]

所員募集

一、學力　中學卒業程度
一、年齡　廿五才迄
一、待遇　採用當初より一ケ月卅五圓以上
一、特典　入所後は無試驗にて技術練習所に入所し得る特典あり
一、人員　五名以内

右至急募集す

中央氣象臺小名濱測候所

時局の生んだ新案特許

日ノ丸習字板（第一四九七八號）

〈使用法半紙節約の目的にて墨で書いて濡雑巾で拭つて減けば何回でも使用出來ます。

◎實用新案
メモ板　第一三〇一二號
野球用ボール　第一七九七三號
興亞ノート　第二四七九八號

◎專賣特許
興亞厚紙　第(イ)一七三六〇號　第(ロ)一七三六一號

平市月見町
合資會社　興亞文具商會

お願ひ

皆樣も既に御承知の通り電力調整令の發動に依りまして電力の制限をせねばならぬ様になりました　弊店は(約百キロ)三割方の節電を余儀なくされます　近々當市にも其の告示がある事と思ひますが國策に添ひ奉つて此れが節約上營業時間を短縮(三十分乃至一時間位)閉店致度いと思ひます　御不自の事と存じますが御事情御賢察の上御用命は遲くも八時頃迄にて打切り御付け下さいます樣御願ひ申上げます

平市二丁目
日東商會

各位

開院

外科一般　内臓外科
整形外科　肛門病科
性病科　レントゲン科

平市南町（平郵便局本局裏通り）
上田外科醫院
院長　上田耕作
電話一二九番

移轉開業披露

平市才槌小路二二
元青木繭店跡へ

移轉致しました　何卒相變らず御引立の程幾重にもお願申上げます

ユアサランプ配給所
自轉車
リヤカー　商
矢野輪業商會
電話七三〇番

男女工數名募集

常磐毎日印刷株式會社
平市長橋町【電話六三〇番】

洋酒と喫茶
麗人のサービス
氣分本位の店
タヒラ・ギンザ通り
グリル　バツカス
電七二〇番

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平市公園下　電話六七四番

吉田眼科醫院
平市紺屋町
電話八六番

電話變更廣告
變更番號　電話六八一三番
平市田町
耳鼻咽喉
鈴木科醫院
鈴木正男

かぜ
せき
共通散「アコー」

本品は感冒、頭痛、解熱又は流行性感冒肺炎、喘息、急性、慢性氣管支炎に効ける乾咳性の劇甚なる咳嗽發作に對し又子供には小兒に於ける氣管支かたる、かたる性肺炎、肺炎、肋膜炎、咽喉かたる、百日咳等の鎭咳鎮痛解熱劑として効あり特に子供達の爲めに小兒用があります。

正價　三十錢、五十錢、一圓

平市古鍛冶町一〇(縣社石段下)
製劑發賣元　阿康藥局
責任者藥劑師　明治藥學士　阿部康雄
電話四四番
振替東京三〇〇六五番

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六(電話一七〇番)

冬物は
是非!
當店から
（在庫豐富）

玉屋洋品店
平田町通　電話六五六番

干やなぎ
と"美味しい"
みりんぼし
『鰹節製造販賣』

志賀盛榮商店
平市四丁目（電話二一三番）
日本生命平代理店

御會葬御禮

昭和十五年二月二十四日
福島縣平市鎌田町
男　鈴木定光
外親戚一同

メガネは!
平市二丁目
玉屋